

# 沢例会

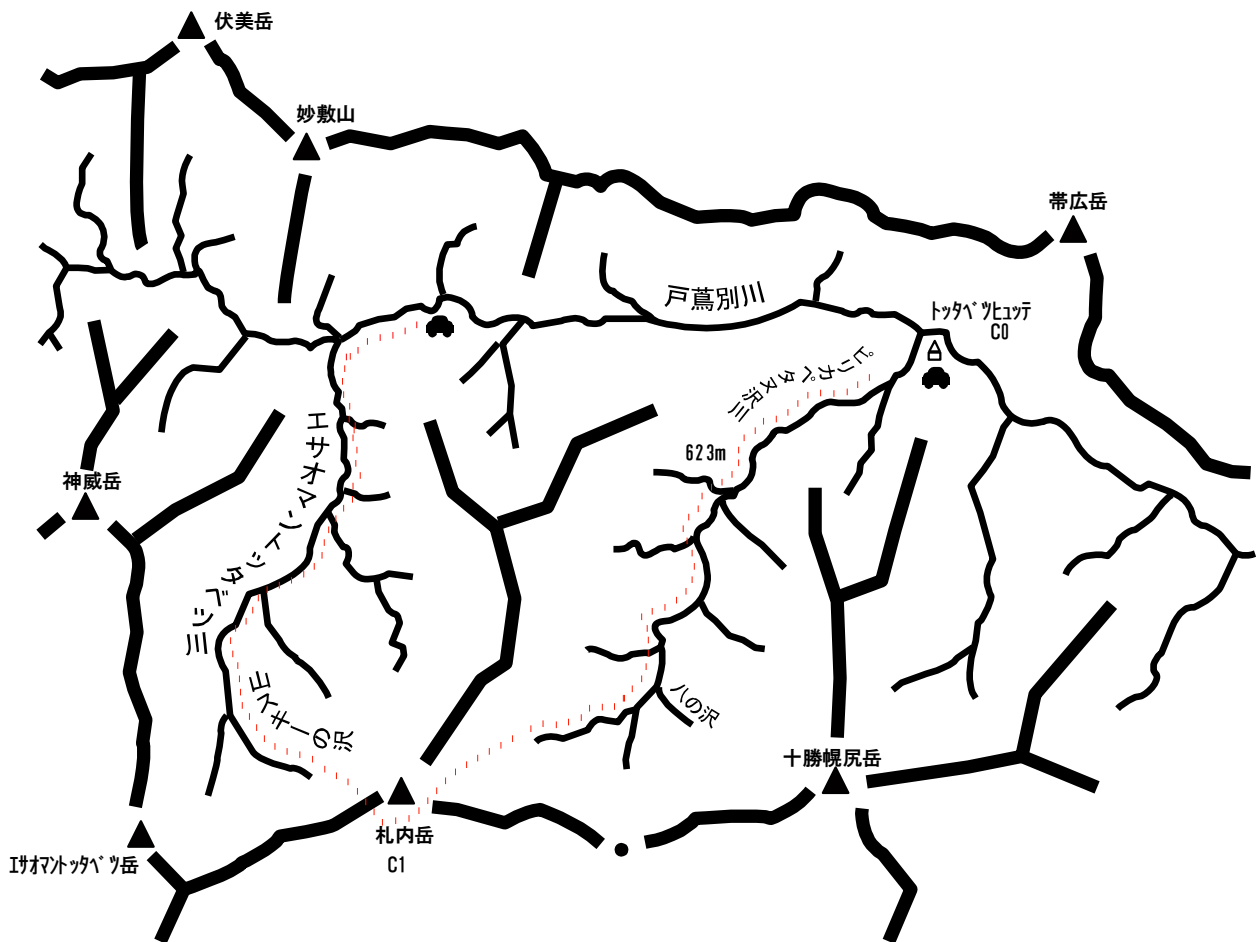
## 札内岳 (1,896m)

～エサオマントツタベツ川からピリカペタン沢下降～

2013年8月2日～4日

L山本 M[千葉、小野(睦)、福家

【8月2日】	6:53 660m 入溪	【8月4日】
15:30 千葉宅発	7:33 コタ715m 二股	4:30 起床
19:00 トツタベツヒュッテ着	8:35 コタ823 二股	6:05 下山開始
【8月3日】	10:07 コタ995m 二股	6:48 コタ1503m 水場
4:30 起床	14:34 1791m 稜線	10:30 八の沢出合い
6:05 6号砂防堰堤発	15:40 札内岳山頂	12:12 623m 林道
6:24 エサオマントツタベツ川出合い		13:13 トツタベツヒュッテ着



トッタベツヒュッテと6号砂防堰堤に車をデポする。

エサオマントッタベツ川出合いで金澤パーティと別れ、コンタ660mで入渓する。

沢は、透明度がなく心なしか濁っているような気がした。

途中、ガイド登山の一行とすれ違った。彼らは、北東カールまで行ったが、上部が殆ど雪渓に覆われていたためカールで一泊し断念したとのことだった。例年より雪渓が多いようだ。

823m 二股を過ぎると、右の沢からのデブリの上に大量の土砂が堆積している箇所があり、濁りの原因はこのデブリだった。

995m 二股を過ぎる頃から滝が連続して現われてくる。2箇所スノーブリッジが現われたが、いずれも雪渓上部を右岸沿いに通過する。詰めは、そのまま沢沿いに詰めず、右股沿いに行く。1791mの稜線にでた。



デブリの上に大量の土砂が



ここから、ハイマツに覆われた踏み跡を見失わないよう注意しながら山頂を目指す。山頂には、ピリカペタン沢から来た単独行の登山者がテントを張っていたので、山頂10mほど手前のハイマツの中にテントを設営する。あたりはガスで覆われていた。

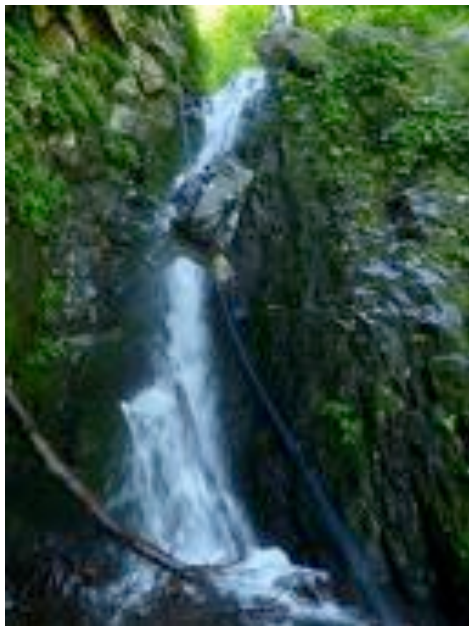
山頂以外にテントを設営できる場所は、この場所だけだった。4人用テントを設営するのやっとの広さだ。



翌日は晴天。雲海が広がり、遠く金澤パーティがいる七つ沼が雲海の上に望めた。

雲海は、稜線を乗り越えて零れ落ちるように流れており絶景だった。

下りは、札内岳の北尾根への踏み跡をたどり、コルから沢へ向かった。



殆どが下降可能な滝だが下降困難なところは鮮明な踏み跡がついていた。しかしながら2回ほど懸垂下降し、八の沢出合いに着く。

ここからは、右岸、左岸に踏み跡が有り、効率よく探し出せば時間短縮が可能だ。623m 二股を過ぎた地点で、右岸に林道にでる。ピリカペタン沢を往復するパーティの車がデポされていた。

我々は、ここからトッタベツヒュッテまでテクテク歩き1時間ほどで辿りついた。

計画では、エサオマントッタベツ川山スキーの沢から札内岳へ登り、札内岳の山頂で野営。翌日は、ピリカペタン沢下降し、八の沢出合いから十勝幌尻岳を登り、夏道を下る予定だった。

八の沢出合いまでは、計画通りの時間だったが、出発時間が1時間遅れであったことや、疲労感からそのままピリカペタン沢を下ることにした。

1995年の沢例会のときに、エサオマントッタベツ川北面直登沢から札内岳を越え、八の沢出合いで野営した。今回も初日に札内岳を越えることができれば十勝幌尻岳へのアタックも可能だったかもしれない。

山スキーの沢が北面直登沢よりも若干距離があったことや、藪漕ぎで時間や精魂をつき果たしたのが敗因だった。

(山本 記)